

各分野において5類移行後に想定される状況等について

| 分野 | コロナ禍における現状 | 5類移行後に想定される事象 | 5類移行後に想定される状況 (○:プラス要素、●マイナス要素) |
|------|--|---|--|
| 地域産業 | <p>○飲食業や製造業など多くの市内事業者がコロナ禍の影響を受け、売上高や収益が落ち込んだ。 ○各事業者が感染症対策の制限のある中、デジタル技術を活用しながら経済活動に取り組んだ。</p> <p>○サプライチェーンの再編（調達先の見直し・分散等）など、供給側の変化への対応が必要となった。 ○外出自粛や新しい生活様式などによる市場の変化（個人・家族単位・自宅での消費の増加など）があった。 ○各事業者が、社会の変化に対応し、新製品・新サービスの開発や、非対面の販路開拓などに取り組み始めた。</p> <p>○テレワークなどの新たな働き方が広がった。 ○リスク分散の観点から、企業の地方への拠点分散や本社機能の移転の動きが生じた。</p> <p>○デジタル化を担う人材を育成・確保する必要性が高まり、デジタル技術に関する人材の育成・確保に向けた環境整備に事業者が取り組み始めた。</p> <p>○社会経済への影響の長期化に伴い、非正規雇用をはじめ、労働者の雇用環境は厳しい状況が続いた。</p> | <p>○国や県をまたぐ行動制限がなくなり、人流が増える。 ○営業など対面での企業活動に係る制限がなくなる。 ○屋内・イベントでの収容人数制限や、声出し制限がなくなる（1/27～）。 ○感染者や濃厚接触者となった社員等の外出自粛要請がなくなる。</p> | <p>○生産活動全体としては緩やかに持ち直す。 ●コロナ禍に端を発する供給面での制約や原材料価格の高騰などの影響が引き続き大きく、停滞が続く業種がある。 ○経済活動へのデジタル技術の活用が拡大する。 ●デジタル技術の活用等に対応できない事業者等において、業績の回復に時間がかかる。</p> <p>○サプライチェーン再編の変化への対応が定着する。 ○外出に伴う消費（サービス支出）が増加する。 ●物価高騰の影響等により、個人消費の回復に時間がかかる業種がある。 ○対面による国内外への販路開拓の機会が増える。 ●インターネット販売、海外等への新たな販路拡大や、新製品・新サービスの開発ができない事業者等において、業績の回復に時間がかかる。</p> <p>○テレワークが定着する。 ●人流の首都圏等への一極集中の動きが再開する。 ●地方への拠点分散・本社機能の移転の動きは一定程度定着する一方で、全体としては鈍化する。</p> <p>○デジタル人材の育成・確保の必要性が高水準で継続する。 ●デジタル人材の育成・確保が困難な事業者が出てくる。</p> <p>○宿泊業や飲食サービス業などコロナ禍で影響を受けた業種を含め求人が増加する。 ●人手不足が生じ、他社との競合により必要人員を充足できない事業者が出てくる。</p> |

各分野において5類移行後に想定される状況等について

| 分野 | コロナ禍における現状 | 5類移行後に想定される事象 | 5類移行後に想定される状況 (○:プラス要素、●マイナス要素) |
|-------|---|--|--|
| 歴史・文化 | <p>○イベント・行事の自粛や収容人数の制限などにより、芸術・文化の発表の機会や芸術・文化に触れる機会が減少した。</p> <p>○パフォーマンス動画のオンライン配信や公演のライブ配信など、新たな発表の場が広がった。</p> <p>○少子高齢化等による文化の継承問題に加え、多くの地域において、祭りや行事などが中止・縮小された。</p> <p>○中断することによって祭り・行事それ自体が消えてしまうものであるとの危機感が強まった。</p> | <p>○屋内・イベントでの収容人数制限や、声出し制限がなくなる(1/27～)。</p> <p>○国や県をまたぐ行動制限がなくなり、人流が増える。</p> | <p>○芸術・文化の発表の機会や、直接芸術・文化に触れる機会が増える。</p> <p>○公演の配信等、デジタル技術により、気軽に芸術・文化に触れられる仕組みが定着する。</p> <p>○時代に合わせた対応をとりながら、祭りや行事等が開催されるようになる。</p> <p>●コロナ禍で縮小・中止された状態が定着し、祭りや地域行事等の開催や継承が困難になる。</p> <p>●首都圏等への一極集中の動きが再開し、地域文化の担い手が不足する。</p> |

各分野において5類移行後に想定される状況等について

| 分野 | コロナ禍における現状 | 5類移行後に想定される事象 | 5類移行後に想定される状況 (○:プラス要素、●マイナス要素) |
|--------------|---|--|---|
| <p>交流・観光</p> | <p>○インバウンド需要はもとより国内旅行需要が大きく落ち込み、観光関連事業者が甚大な影響を受けた。 ○感染症対策や混雑防止のため、事前予約制やリアルタイム情報発信などの取り組みが生まれた。 ○オンラインツアーやVR観光などデジタル技術等を活用した観光誘客や観光スタイルが生まれた。 ○個人・少人数旅行に加え、マイクロツーリズムやワーケーションなどの新たな旅行形態が生まれた。</p> <p>○賑わい創出のためのイベントや対面によるサービスが制限され、地域の経済活動が影響を受けた。 ○非接触型決済やインターネット販売などデジタル化の取り組みが進んだ。</p> <p>○リモート会議の浸透や公共交通の利用控え等の影響により、公共交通の乗降客数が減少した。 ○非接触型決済やMaaS等の新たなモビリティサービスへの対応や、持続可能で利便性の高い移動手段を求めていく必要性が高まった。</p> <p>○大都市における過度な人口集中が抱えるリスクが顕在化し、移住や二地域居住など地方分散の機運が高まった。</p> | <p>○国や県をまたぐ行動制限がなくなり、人流が増える。 ○屋内・イベントでの収容人数制限や、声出し制限がなくなる(1/27～)。 ○飲食や体験型サービスの提供等に関する制限がなくなる。 ○マスク着用は個人の判断に委ねられるが、通勤ラッシュ時等の混雑した電車やバスでは、マスク着用が推奨される。(3/13～)</p> | <p>○国内旅行客数、訪日旅行客数ともコロナ前に近づく。 ○1人あたり消費額が増え、観光関連産業への域内消費額が増加する。 ○観光客の受入や誘客活動へのデジタル技術の活用が定着する。 ○個人・少人数旅行が増加。マイクロツーリズム・着地型観光・ワーケーションなどの旅行先・旅行目的の多様化が定着する。 ●宿泊・飲食サービスの分野での人手不足が深刻化し、多様化する旅行者の受け皿が不足する。</p> <p>○さまざまなイベントや行事等が再開される。 ●物価高騰の影響等が続くことにより、個人消費の回復に時間がかかる。 ○非接触型決済やインターネット販売などのデジタル技術の活用が定着する。 ●インターネットショッピングが定着し、実店舗の利用がコロナ前の水準には回復しない。</p> <p>○公共交通の利用者はある程度回復する。 ●ネットショッピングやテレワーク、オンライン会議の定着等、ライフスタイルの変化により、公共交通の利用がコロナ前の水準までは回復しない。 ○デジタル技術を活用した、持続可能で利便性の高い移動手段への需要が継続する。</p> <p>●移住や二地域居住などの地方分散の機運は一定程度定着する一方で、その動きは鈍化する。再び首都圏等への一極集中の動きが出てくる。</p> |

各分野において5類移行後に想定される状況等について

| 分野 | コロナ禍における現状 | 5類移行後に想定される事象 | 5類移行後に想定される状況 (○:プラス要素、●マイナス要素) |
|---------------|---|---|---|
| <p>子育て・教育</p> | <p>○子育て支援センターなどでの交流機会が減少し、子育て世代等の孤立化が懸念される状況となった。 ○デジタル技術の活用により、非対面での相談機会が増えた。</p> <p>○若い世代を中心に、テレワークなど新たな働き方を取り入れる動きが増えた。</p> <p>○国のGIGAスクール構想により、1人1台学習専用端末等が整備され、授業や家庭での活用が進むとともに、教員の指導力が向上した。</p> <p>○生活環境の急激な変化による心への不安や運動不足による体力の低下、新型コロナウイルス感染症に関連した人権侵害など、子どもの成長や学校生活をめぐる新たな課題が生じた。</p> <p>○学校や保育施設における感染症対策に伴う業務の増加により、教職員や保育士の負担が増えた。</p> <p>○公民館や各地域では、各種講座や教室を開催し、地域に根差した学習と交流の場づくり等に取り組んでいたが、外出自粛等に伴い、地域での活動機会が減少した。 ○デジタル技術を活用した学習機会が増えた。</p> <p>○外出自粛や行動制限等により、スポーツをする機会が減少した。</p> | <p>○屋内・イベントでの収容人数制限や、声出し制限がなくなる(1/27～)。 ○飲食や体験型イベントに関する制限がなくなる。</p> | <p>○子育て世代向けのイベントが再開される。 ○対面相談の機会が増える。 ○デジタル技術を活用した相談対応が定着する。</p> <p>○テレワークが定着する。 ●テレワークの減少、会食や出張が再開などにより、働き手が家庭で過ごす時間が減少する。</p> <p>○授業や家庭での学習端末活用が定着する。 ●指導方法の習熟、情報セキュリティの知識、リテラシーの向上など、教員に対しては引き続き高い対応力が求められる。</p> <p>○感染症対策に伴う業務は減少する。 ●継続的に感染拡大への予防や、予防に対する考え方の違いへの配慮が必要になる。</p> <p>○地域住民による対面での交流や学習等の機会が再び増加する。 ●外出控えが定着し、地域での学習や交流の場への参加者が元の水準まで回復しない。 ○公民館活動へのデジタル技術の活用が定着する。</p> <p>○スポーツに親しめる機会が再び増える。</p> |

各分野において5類移行後に想定される状況等について

| 分野 | コロナ禍における現状 | 5類移行後に想定される事象 | 5類移行後に想定される状況 (○:プラス要素、●マイナス要素) |
|--------------|--|---|---|
| <p>安全・安心</p> | <p>○自治会等によるさまざまなコミュニティ活動の機会が減少し、地域のきずなの喪失につながる恐れが生じた。 ○コミュニティ活動におけるデジタル技術の活用が進んだ。</p> <p>○外出自粛の長期化や活動機会の減少は、高齢者の健康状態の悪化につながる恐れが生じた。 ○デジタル活用に不安のある高齢者等について、デジタル技術の活用支援の必要性が高まった。</p> <p>○医療従事者への負担が増加した。</p> <p>○収束の見通しが難しい中、引き続き県や関係団体と連携し、医療提供体制の確保と感染症対策に取り組んだ。</p> <p>○社会構造の変化や行動変容等も踏まえ、国内外で脱炭素社会の構築に向けた機運が高まった。</p> <p>○感染症対策を踏まえた防災活動に取り組んだ。 ○再度の感染拡大を想定した防災活動や避難所の運営訓練に取り組んだ。</p> <p>○社会構造の変化や行動変容等により、デジタル・トランスフォーメーションの動きが加速化するとともに、行政分野でのデジタル化の遅れが顕在化した。</p> | <p>○イベントでの収容人数制限や、声出し制限がなくなる(1/27～)。 ○感染症指定医療機関でなくてもすべての医療機関でコロナの受診が可能となる。 ○マスク着用は個人の判断に委ねられるが、医療機関受診時や高齢者施設等への訪問時等には、マスク着用が推奨される。(3/13～)</p> | <p>○各自治会において、コミュニティ活動等が再開される。 ●コミュニティ活動の縮小した状態が定着し、元の水準まで回復しない。 ○コミュニティ活動へのデジタル技術の活用が定着・拡大する。</p> <p>○高齢者が健康づくりや介護予防の活動に参加できるような交流の機会が再開される。 ●基礎疾患の状態や考え方の違いによって外出控えを続ける層は残る。 ●デジタル技術の活用に対応できない高齢者等が取り残される。</p> <p>○医療従事者への負担は多少減少する。 ●感染症拡大防止等の取り組みは継続する。</p> <p>○脱炭素社会の構築への機運が継続する。</p> <p>○防災活動や避難所の運営訓練が再開される。</p> <p>○デジタルトランスフォーメーションの加速化とともに、行政分野でのデジタル化の必要性が高い水準で継続する。 ●デジタル技術の活用に対応できない方が取り残される。</p> |